



目次

大学図書館の現況と展望について	1
中央図書館の貴重書とその利用状況 (中井えり子)	3
附属図書館所蔵図書の遡及入力について ...	7

大学図書館の現況と展望について

平成11年7月21日(水)の午後に平成11年度第1回名古屋大学図書系職員研修会が開催されました。講師は椋山女学園大学生生活科学部教授の松村多美子氏と九州大学附属図書館長の有川節夫氏で、参加者は東海地区の大学図書館関係者を含む55名でした。以下に講演の要旨を紹介します。

1. 大学図書館の過去、現在から未来へ (松村多美子氏)

我が国の大学図書館の改善を図るため、昭和48年から平成11年までに学術審議会等によって8つの報告や答申が出されている。昭和48年に出された「学術情報流通体制の改善について(報告)」では、大学図書館を第1図書館システム、新たに設置するコンピュータとネットワークを活用した図書館システムを第2図書館システムと位置付け、第2図書館システムによって大学図書館システムを活性化させる考え方が盛り込まれている。これは学術情報システムの起源といってもよいであろう。昭和50年度及び51年度は大学図書館の改善を図るための基準要項が検討された。昭和55年には「今後における学術情報システムのあり方について(答申)」が出され、学術情報システムにおける大学図書館の位置付けが明確にされた。平成2年の「学術情報流通の拡大方策について(報告)」では、複

写サービスへの高速ファクシミリの導入、外国雑誌センターの充実、電子図書館システムの開発が述べられている。平成5年の「大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告)」は初めて大学図書館が学術審議会の報告として取り上げられたもので、その重要性が認識されたという意味でもメルクマールとなるものである。平成8年の「大学図書館における電子図書館機能の充実・強化について(建議)」は大学図書館における電子図書館化について明確な指針が示されている。最新の平成11年6月の「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について(答申)」では、大学図書館における資料の分担収集、相互利用を促進するための遡及入力、電子図書館機能の推進、保存図書館の設置、情報関連施設との有機的連携等が提言されている。

平成10年10月の「21世紀の大学像と今後の改革方策について - 競争的環境の中で個性が輝く大学 - (答申)」では大学の今後の方向性が提示されているが、大学図書館は従来にも増して研究・教育の情報基盤及び社会に開かれた図書館として機能する必要がある。このためには情報発信・教育の担当者である研究者とコミュニケーションを密にすると共に協力し、図書館が大学の中で孤立しないように留意すべきである。電子図書館はそのための有効な手段である

が、その機能は多様であり、コンセンサスが得られていない。最近アメリカでは電子図書館を complex library と呼ぶようになってきている。電子図書館は、多様なメディア、利用形態、学術コミュニケーションの変化に対応して出現したもので、バージニア大学のE-テキストセンターのような電子資料センター機能を持つもの、カリフォルニア大学バークレイ校のDigital Scriptoriumのような出版機関としての機能を持つもの、ミシガン大学のDigital Library Production Serviceのような電子資料の作成・流通機関としての機能を持つものがある。

今後の大学図書館はトロント大学図書館のように電子メディアであれプリントメディアであれ、その所在が図書館内であれ学外であれ、それらを意識させないでシームレスにまた、利用者が研究室にいながらにして利用できるようにすべきであろう。そのためには、他で電子化された資料の収集、異なるシステムの横断検索ができるシステムの提供、電子化資料拡大のためのコンソーシアムによる契約等が不可欠となる。電子図書館にはスタンダードなメニューはない。各大学で電子図書館のビジョンを策定し、その際に創造性と想像性を発揮することが図書館職員の専門性であろう。所蔵資料と外部情報源によるサービスを切り離れたサービス・エージェントとしての図書館が出現しつつあるように思われる。

2. 情報学研究と大学図書館

(有川節夫氏)

平成12年4月に発足する国立情報学研究所は平成9年5月の学術会議の勧告「計算機科学研究の推進について」に端を発したものである。平成10年1月には学術審議会から「情報学研究の推進方策(建議)」が、3月には文部省から「情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議報告書」が出され、急速に具体化が進んでいった。当初の勧告では、計算機科学(コンピュータサイエンス)の研究を推進するために、その中核となる国立研究所の設立が提案されたが、建議では、情報科学・計算機科学から生命科学系, 人文社会系にわた

る幅広い分野を対象として情報に関する学問の体系化を図るため、情報分野の学術研究を推進する中核的な研究機関(中核研)を大学共同利用機関として設置することが提言されている。報告書では、学術情報センターを母体とする改組・拡充によって、大学共同利用機関として中核研を設立するという方針が示された。このように研究所の設置形態と目的は学術会議の勧告とは幾分異なったものになっている。

平成11年7月の「情報学研究の中核的研究機関の創設について(中間まとめ)」によれば国立情報学研究所は、研究組織としての7つの研究系と2つの研究施設、事務組織、事業組織を持つことになっている。研究組織の内、情報資源研究センターは大学図書館との接点になるものであろうし、情報メディア研究系、人間・社会情報研究系、及び実証研究センターも関連が深いと思われる。それ以外の研究系についても関係する研究部門が含まれている。現在、学術情報センターでは大学図書館に対して目録所在情報サービスを行っており、事実上そのサービスなしでは大学図書館業務は成り立たなくなっている。大学図書館としては国立情報学研究所に学術情報センターが改組・転換した場合、大学図書館を対象としたサービスがどのようになるか非常に気になるところであるが、国立大学図書館協議会等からの学術情報センターへの要望もあり、現在のサービスは、何らかの形でそのまま引き継がれるであろう。

さて、大学図書館業務は情報学研究の好個の対象といってよい。有川研究室では、情報検索システムの研究、テキストデータベース管理システムの研究、パターン照合アルゴリズムの研究、発見科学、大規模データからのデータマイニング、図書目録データの遡及入力等を研究テーマとしている。最も古くから研究されているのは情報検索システムであるが、研究者ファイルを利用した多段階検索システムが構築された。また、パターン照合アルゴリズムの研究は情報検索における文字列パターン照合の高速化とデータ圧縮に貢献し、テキストデータベース管理システムSIGMAが設計された。目録カードの遡及入力は図書館の電子化の基本・出発点

であるが、従来の方式では遡及入力終了するのに数十年かかってしまう。そこで目録カードを画像データとして入力し、それを利用した検索システムを構築することで遡及入力の促進を図ることを検討している。カードの画像入力は画像処理におけるノイズの除去やデータ圧縮等の技術的課題の一つである。九州大学では試験的に既にいくつかの学部の和図書、洋図書のカード目録が画像データとして入力され、検索できるようになっている。少なくともカード目録の画像データ検索システムができれば、目録カードの移動ができるであろうし、本格的な遡及

入力作業のツールとしても活用できると思われる。最近、大量のテキストデータの中から必要な情報を見つけ出すテキストデータマイニングの技術が注目されている。電子図書館では電子化されたコレクションから必要な情報を発見することが必須となるが、テキストデータマイニングは電子図書館機能の一つとして重要である。また、ネットワーク上のデータを探し出すネットワーク・エージェントとしての利用が期待できる。このように、大学図書館は情報学の研究と非常に関わりが深いものである。

中央図書館の貴重書とその利用状況 —14年間の記録から—

中 井 えり子

はじめに

これからの中央図書館の蔵書構築を考える上で、現在の蔵書の特徴を知り、図書資料がどのように利用されているかを把握する必要がある。その一端として、中央図書館では、どのような図書が、貴重図書・準貴重図書として指定されており、それらがどのように利用されているかを調べてみた。

中央図書館には、「名古屋大学附属図書館貴重図書・準貴重図書取扱い基準」(昭和57年4月13日施行)があり、昭和60年1月の指定を第1回として、平成10年度末までに、4,425冊の貴重図書と14,909冊の準貴重図書が指定されて、貴重書室に納められている。まず、これらの貴重図書・準貴重図書への指定状況をまとめ、さらに保存されている文書類をたどって閲覧、複写および書物等への掲載状況に着目して調査してみた。

貴重図書・準貴重図書の指定状況について

下の表(1)(2)は、これまでに指定された貴重図書類の指定年月日、コレクション名等および指定冊数である。目録の欄は目録作成状況で、 \square は冊子体目録、 \square はOPACで検索可能、 \square はカード目録、+は整理中であることを示す。

コレクション名の*は、大型コレクションとして受け入れたものである。指定冊数は、必ずしもコレクション等の総冊数ではない。

なお、上記の基準によって指定されていないが、特殊コレクションとして所蔵している「伊藤文庫」188冊、「岡谷文庫」4,006冊、「森本文庫」1,993冊、および「小林文庫」673冊が、貴重図書・準貴重図書に準じて取り扱われている(昭和62年図書選定委員会。冊数は和漢古典籍整理専門委員会による)。これらはカード目録のほかに「名古屋大学所蔵古典籍 国書総合目録」(1998)に掲載されており、また神宮皇學館文庫とともに『国書総目録』にも採録されている。また高木家文書も貴重図書として扱われており、約7万7千点のうち、5万2千点が整理済で、冊子体目録5巻が刊行されている。

これらの文庫やコレクションの概略については、『名古屋大学附属図書館概要』をご覧いただきたい。表中のコレクション外というのは、特別図書費や部局よりの移管などで受け入れられたもので、ホップズの代表作である『リヴァイアサン』の初版や、11月に本館で開催される展示会に出品の『百科全書』や『エンサイクロペディア・ブリタニカ』(いずれも初版)などが含まれている。

(1) 貴重図書 (平成10年度末現在)

指定年月日	目録	コレクション名等	指定冊数
S 60.1.23		ホップズ・コレクション 第I期(S54)*, 第 期(S55)*, 第 期	1,015
H2.5.25		H.P.イプセン博士旧蔵書(S62)	99
H2.5.25		英国貴族院日誌(S62)*	103
H2.12.12		リトルトンコレクション(S60*, S62)	1,887
H2.12.12		ヨーロッパ教育史教育理論コレクション(S62)*	68
H8.10.3	+	フーバッチュ教授旧蔵書(S61)*	55
H8.10.3		言語哲学コレクション(H1)*	106
H8.10.3		英国貴族院上訴事件判例集(H5)*	90
H8.10.3他		18世紀フランス自由思想家コレクション(S62)*	489
S 60.1.23他		コレクション外(洋図書)	513

(2) 準貴重図書

指定年月日	目録	コレクション名等	指定冊数
S 60.1.23		ホップズ・コレクション(第 期)	95
H2.5.25		19世紀ドイツの政治パンフレット(S62)	29
H2.5.25		内田文庫(S50)	54
H2.5.25他		イギリス議会資料(S60, S62)	77
H2.5.25		神宮皇學館文庫(S22)	14,295
S 60.1.23他		コレクション外(洋書 スペイン戦争関係を含む)	359

利用状況について

閲覧、複写および書物等への掲載状況について、保存されていた「貴重書閲覧申請書」「準貴重書閲覧票」「特別複写申請書」「掲載許可申請書」によって、貴重図書が初めて指定された昭和60年度から調べてみた。高木家文書に関わ

る数字は、高木家文書調査室調べの数字を用いた。

また、平成9年度分までの大型コレクションの利用状況については、文部省の図書館等の組織機構等調査の「図書資料(大型コレクション)利用状況調査」に報告されている。

資料別閲覧および文献複写の状況(昭和60年~平成10年度 文献複写は部分コピーも含む)

コレクション・文庫名	閲覧(点数)			文献複写(点数)		
	学内	学外	合計	学内	学外	合計
ホップズ・コレクション(第I期~第 期) ^{注1)}	23	124	147	2	24	26
18世紀フランス自由思想家コレクション	2	166	168	0	1	1
言語哲学コレクション	2	1	3	0	8	8
リトルトン・コレクション	8	17	25	12	3	15
フーバッチュ博士旧蔵書	10	16	26	0	0	0
英国貴族院日誌	3	55	58	0	0	0
イギリス議会資料	7	13	20	0	1	1
ヨーロッパ教育史教育理論コレクション	1	0	1	0	2	2
文庫外(洋図書)	20	31	51	2	16	18
神宮皇學館文庫 ^{注2)}	171	404	575	16	157	173
岡谷文庫	112	87	199	2	29	31
森本文庫	21	6	27	0	0	0
小林文庫	14	23	37	0	9	9
伊藤文庫	9	15	24	5	6	11
岡田家文書 ^{注3)}	0	1	1	4	0	4

鈴木楯夫文庫	1	4	5	0	7	7
文庫外(和図書) ^{注4)}	20	19	39	1	4	5
小計	424	982	1,406	44	267	311
高木家文書	2,117	10,082	12,199	94	2,052	2,146

注1) 松田寛氏の“A catalogue of Western economic literature in Japanese university”編集のための利用は含まれていない。

注2) 国文学研究資料館の事業による特別複写は含まれていない。

注3) 岡田家文書(未整理)は、愛知県海東郡長須賀村の庄屋文書である。

注4) 文庫外の和図書は、概ね明治20年頃までに刊行された和装本。

掲載(写真・翻刻)された貴重書について

紙面の制限もあり、掲載リストを載せることができないので、ここでは高木家文書を除く各文庫ごとに主だったものをごく簡単に紹介する。掲載許可申請書はすべて学外者からのものであった。()内の点数は、書誌の単位で数えた。なお、高木家文書については、44点の出版物に掲載されているが、名古屋大学附属図書館高木家文書調査室編『高木家文書調査報告』3～7(1974-79)、『高木家文書目録』、『名古屋大学古川総合研究資料館報告9及び14』の高木家文書調査報告 補遺の3,8(1993, 1998)に研究成果としても報告されているのでそちらを参考にされたい。

<ホップズ・コレクション>

(写真掲載 1点)

- ・Hobbes, Thomas. "Liviathan..." London: Printed for Andrew Crooke..., 1651. 掲載書: Iwasaki, Soji. *Shakespeare studies*. 35: 103-127, 1997.

<伊藤文庫>

(写真掲載 3点)

- ・伊藤圭介編 「錦窠漁譜」「錦窠獸譜」「錦窠動物図説」より 掲載書: シーボルト記念館『伊藤圭介展 展示録(第6回特別展)』(1994)

<岡谷文庫>

(写真掲載 7点)

- ・「可笑記評判」(万治3年刊) 掲載書: 『近世文

学資料類従 仮名草子編 21～23 可笑記評判』(勉誠社 昭和52), 他1点に写真掲載

- ・「都林泉名勝図絵」より2箇所 掲載書: 『NHK 国宝への旅 12巻』(日本放送協会 1988) および 『NHKライブラリー 32 国宝への旅 6 東国逍遙』(日本放送出版協会 1997)
- ・「宇治拾遺物語」巻の1 掲載書: 加藤道理[ほか] 編著 『新編常用国語便覧 新編改訂版』(名古屋 浜島書店 1991)
- ・「当世御伽曾我」2～5巻, および「風流東鑑」6～10巻 掲載書: 『八文字屋本全集 第4巻』(汲古書院 1993)
- ・「絵本花紅葉」明和7年1月刊(絵本倭文庫 4編1), および「絵本雪月花」明和5年1月刊(絵本倭文庫 4編2) 掲載書: 松平進編 『新注絵入曾根崎心中』(和泉書院 1998 古典名作選・現代語訳付) (翻刻 4点)
- ・「花実義経記」「楠三代壮士」「女曾我兄弟鑑」, および「日本契情始」 掲載書: 『八文字屋本全集 第7～8巻』(汲古書院 1995)

<小林文庫>

(写真掲載 2点)

- ・「西行撰集抄」(貞享4年版本)より『観釈聖往生の事』および『正直房往生の事』 掲載書: 『岩波講座日本文学と仏教 第3巻 現世と来世』(岩波書店 1994)
- ・「百因縁集」 掲載書: 『新潮古典文学アルバム 第9巻 今昔物語集 宇治拾遺物語』(新潮社 1991) (翻刻 2点)

- ・「十訓抄」延宝6写の写本, および「十訓抄」玉松家文庫の写本 掲載書: 泉基博編著 『校本十訓抄』(右文書院 1996)

(校訂本 3点)

- ・「さよころも」, および「小夜衣」 掲載書: 名古屋国文学研究会著 『小夜衣全釈 付総索引』(風間書房 1999)
- ・「暮春白河尚齒会和歌」 掲載書: 『新編国歌大観 第5巻 歌合編 歌学書・物語・日記等収録 歌編』

(角川書店 1987)

<神宮皇學館文庫>

(写真掲載 6点)

- ・「薬師寺縁起」(元弘3年覚明写)巻頭・巻尾 掲載書:『国史大辞典 第14巻』(吉川弘文館 1993)
- ・「かさね草子」表紙および巻頭 掲載書:朝倉治彦, 深沢秋男共編『仮名草子集成 第18巻』(東京堂出版 1996)
- ・「清水物語」 掲載書:柳沢昌紀『『清水物語』の出版をめくって』(藝文研究 61号 p.52-74, 1992.3)
- ・芳幾画「豊饒御蔭参之図」 掲載書:『歴史への招待 第31集』(日本放送出版協会 1984), 他4点
- ・「蓬左見聞雑著」 掲載書:名古屋市蓬左文庫編集『名古屋叢書三編 第14巻 金明録』(名古屋市教育委員会 1985)
- ・「容競出入湊」 掲載書:『未翻刻戯曲集 12 容競出入湊』(国立劇場芸能調査室 1988)

(翻刻 20点)

- ・「いさよひ物語」 掲載書:安田徳子著『中世和歌研究』(和泉書院 1998 研究叢書 222)
- ・「伊豆三島大明神由緒」 掲載書:『神道大系神社編 21 三島・箱根・伊豆山』(1990)
- ・「詠百首和歌」正保2年写 掲載書:田村柳菴『『三体和歌』注:翻刻と紹介(3)』(古典論叢 第15号, 1985)
- ・「歌仙独吟」 掲載書:名古屋市蓬左文庫編集『名古屋叢書三編 第18巻(1)横井也有全集 下(1)』(名古屋市教育委員会 1985)
- ・「熱田祭故実考」 掲載書:熱田神宮宮庁編纂『熱田神宮史料 年中行事編 下巻』(熱田神宮宮庁, 1975), 他1点
- ・「寛佐・英方・紹宅独吟のうち」天正15歳12月 山河 1巻;「集連歌」のうち, 慶長5年正月3日 北野裏白 1巻;同 慶長7年卯月26日 於大徳寺 紹巴追善 掲載書:川添昭二[ほか]編著『太宰府天満宮連歌史:資料と研究 第3巻』(太宰府天満宮文化研究所 1986)
- ・「奉寄進田地事」(朝倉家関係文書) 掲載書:福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館『第5回企画展 戦国大名越前朝倉氏の誕生』(1992)
- ・「御朱印之写紀州様御由緒書」ほか3点角屋文書より 掲載書:鈴木えりも「角屋の朱印状について」(三重郷土会「三重の古文化」 第68号 p.32-41,

1992.9)

- ・「角屋朱印船浦賀石銭断状」ほか3点角屋文書より 掲載書:『三重県史 資料編 近世4上』(1998)
- ・「外甚五郎ほか二名連署状」ほか3点角屋文書より 掲載書:『三重県史 資料編 近世1』(1993)

(翻刻・写真掲載 3点)

- ・「唐物語 全」 掲載書:小林保治編著『唐物語全釈』(笠間書院 1998 笠間注釈叢刊 26)
- ・「尤之草紙」, および「絵入一休はなし」 掲載書:『新日本文学大系 第74巻 仮名草子集』(岩波書店 1991)

(校訂本 1点)

- ・「集連歌」57~61丁 掲載書:『千句連歌集 8 飯盛千句・大原野千句・高野千句』(古典文庫 1988)

<文庫外>

- ・「武田勝頼書状」 掲載書:『静岡県史 資料編 8 中世四(戦国時代2)』(静岡県 1996)

おわりに

利用状況を調べるにあたって、集計の過程では年度別にデータを出したが、年によって利用頻度は大幅に異なり、経年的な特徴はみられず、特定の研究者が研究活動を行っている年に利用が集中しているといえる。ほぼ毎年利用があるのは、ホップズ・コレクション、神宮皇学館文庫、岡谷文庫、高木家文書くらいである。閲覧と特別複写の利用では、表のとおり高木家文書が圧倒的に多いが、貴重図書指定冊数を基準とすると、フーバッチュ(47%)、フランス自由思想家コレクション(35%)、高木家文書(28%)、イギリス議会資料(27%)の順で、いずれも、学外者による利用が学内者の利用より多い。また、貴重図書に指定されていても、全く利用されていない資料もあった。

所蔵情報の公開という点では、冊子体目録とOPACでは、この調査の段階では、利用件数にさほどの差がでていようには感じられなかったが、今後は、やはりインターネット上(特にNACSIS Webcat)での目録の公開が大きく影響するであろう。また、それぞれのコレクションを補完するような蔵書構築を行うことも、より

よく研究・教育に活用される要因となろう。

最後にこの調査で気がついたことを箇条書きにしておく。

(1) 貴重図書の選定基準で、洋書が1850年刊行以前のものとなっているが、最近では所蔵冊数が増えたこともあり、印刷・装丁の方法からみても、「英米目録規則」での取り扱いからいっても、1820年以前または1800年以前とする方がよさそうである。

(2) 貴重図書と準貴重図書の区別が明確でなく、近年では準貴重書が選定されていない。

(3) 出版掲載された場合、出版物を1部寄贈受入しているが、受入後の取扱方法が決められておらず、資料に応じてバラバラに配架されており、また一覧するものもない。定期的に報告する場所があるとよい。

(4) 今回は、テレビで放映された資料については記録された文書の存在がはっきりせず、報告できなかったが、今後はそれらも記録にとどめ、ビデオテープ等を残しておくべきであろう。

(なかい・えりこ 情報サービス課図書館専門員)

附属図書館所蔵図書の遡及入力について

情報システム課

1. 遡及入力計画と入力冊数

附属図書館では平成9年度から教育研究特別経費及び科学研究費の配分を受け、所蔵図書の遡及入力を行っています。所蔵図書の遡及入力は、蔵書検索システム(NUL-OPAC)に登録されていない主に昭和62(1987)年3月以前に受け入れられた図書を対象としています。名古屋大学の蔵書は、平成11年3月末現在で約260万冊ありますが、現在、NUL-OPACには約77万冊の図書の所蔵データが登録されています。製本雑誌、古典籍等を除く約92万冊が遡及入力の対象となっています。

平成9年度及び平成10年度にかけて入力した冊数は次のとおりです。

部 局	入力冊数
中央図書館	61,895
教育学部	16,440
工学部	23,568
多元数理科学研究科	12,926
合 計	114,829

今年度(平成11年度)は、昨年度と同様に中央図書館、教育学部、工学部、多元数理科学研究科が遡及入力事業に参加し、約4万冊の図書を入力する予定となっています。

2. 遡及入力データの利用

遡及入力したデータは、NUL-OPACによって24時間、学内外からインターネットを通じて利用できます。つまり、研究室や自宅に居ながらにして名古屋大学で所蔵する資料を探すことができるわけです。貸出・返却システムを導入している中央図書館については探している図書が貸出中かどうかわかります。また、来年1月に図書館の業務システムが更新されますが、新しいシステムではNUL-OPACを介して学内に所蔵している資料の貸借や複写の申し込みができる機能が用意されていますので、学内所蔵資料の利用が一層円滑になることが期待されます。更に、遡及入力と併せて貸出用のバーコードラベルが貼付されています。これは、将来の自動貸出システムの導入による開館中の無人貸出サービスの実現を視野に置いたものです。

3. 遡及入力の今後

遡及入力が終わるまで、所蔵資料を探すにはNUL-OPACとカード目録の併用が避けられず不便です。そのため、遡及入力をできるだけ効率良く実施するように努力を重ねていますが、遡及入力には経費と時間がかかり、思うように遡及入力が進んでいません。電子図書館機能の充実を図るために早急な遡及入力の実現が望まれるところです。

〔国内図書館関係日誌〕

- 11.7.9 第46回国公立大学図書館協力委員会（於：京都大学）出席者：田村事務部長、木村情報管理課長
- 11.7.22 第53回東海地区大学図書館協議会総会・研究集会（於：愛知県立看護大学）出席者：戒能館長、田村事務部長、木村情報管理課長、本多情報管理課課長補佐、加藤情報システム課図書館専門員

〔学内動向〕 <11.7.6-11.10.5 >

会議

- ・第11-2回電子図書館推進委員会<7.8>
 - ・第11-2回蔵書整備委員会<7.8>
 - ・第11-2回商議員会<7.13>
 - ・当面の課題及び附属図書館の将来計画について
 - ・平成11年度教育研究特別経費要求事項について
 - ・情報連携基盤センターにおける電子図書館機能の基本方針について
 - ・第11-1回和漢古典籍整理専門委員会<7.15>
 - ・第11-2回学術情報事務連絡会<7.16>
 - ・第11-3回電子図書館推進委員会<9.14>
 - ・第11-2回図書館システム検討委員会<9.27>
 - ・第11-3回商議員会<9.28>
 - ・平成12年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）計画について
 - ・当面の課題及び附属図書館の将来計画について
 - ・平成10年度附属図書館図書費決算について
 - ・平成10年度附属図書館運営費決算について
 - ・平成11年度附属図書館図書費実行予算について
 - ・平成11年度附属図書館運営費実行予算について
 - ・第11-3回学術情報事務連絡会<9.30>
研修・講習会等への参加
 - ・平成11年度大学図書館職員長期研修（於：図書館情報大学ほか）<7.12-30>
- 出席者：鈴木康生（理）
- ・学術情報センター新CAT / ILL説明会（於：名古屋大学）<7.15>参加者：約150名
 - ・平成11年度第1回名古屋大学図書系職員研修会（於：名古屋大学）<7.21>参加者：55名
 - ・電子図書館推進委員会講演会（於：名古屋大学）<9.14>参加者40名
 - ・NACSIS - IR地域講習会（於：名古屋大学）<10.5> 参加者：森由香（文）、堀友美（医）、谷川澄子（理）、岩下容子（理）、中島孝司（工）、竹内佐知子（農）、山本舞（国際）、杉本万里子（環研）、井上久子（保体）、島村雅史（太陽研）、樋口由紀恵（医短）
人物往来
<ご多幸を祈ります> - 退職された人 -
松岡秀樹（情報サービス課閲覧掛）7.31
<はじめまして> - 新しく採用された人 -
中村香世（情報サービス課閲覧掛）8.1
部局動向
 - ・法学部図書室利用システムを変更し、開架方式（第1, 2書庫）の試行開始（8月）

編集委員会

三池慎三郎（委員長）、井道哲志（中）、愛場美和子（中）、加藤信哉（中）、井原智子（経）、藤田恵子（情文）、加納俊彦（農）、岡田智行（医短）